

## 2022年度 第3回 JSSR プロジェクト委員会 議事録

日時:2022年10月24日(月)20時から21時10分(Web開催)

(参加者、敬称略):

担当理事:橋爪洋、委員長:海渡貴司

委員:折田純久、今城靖明、宮城正行、宮腰尚久、今釜史郎、寺井秀富、吉井俊貴、室谷健太、若尾典充、森幹士、手束文威、大和雄、渡邊慶、中島宏彰、宮崎正志、高畑雅彦、八木満、長田圭司

オブザーバー:波呂浩孝、松山幸弘、伊藤研悠、

(欠席者、敬称略):後藤励

### 議題

1. 橋爪担当理事のご挨拶
2. 波呂理事長より新規プロジェクト研究に関するご提案  
ガイドラインのCQ,FQに新たなエビデンスをもたらす新規プロジェクトを立ち上げたい。方法は、各診療ガイドラインの委員長より1つ研究が必要なテーマを提案いただき委員会で審議する方法を考えている。また、新規プロジェクトの担当は、プロジェクト委員会副委員長を新たに任命し実行いただく形式を考えている。松山前理事長、波呂理事長より、宮腰委員の副委員長への就任推薦あり委員により承認された。宮腰委員より実務担当者を一名秋田大学よりプロジェクト委員に追加すること依頼があり次回の理事会に橋爪理事から申請いただくこととなった。  
インセンティブについて、現在進行中のプロジェクトのうちインセンティブ適用を検討する研究課題・額・条件について、委員会でメール審議を行い、理事会に委員会からの要望として申請する予定となった。
3. 登録終了プロジェクト研究 データ収集・登録状況:解析方法等ロードマップ
  - 腰曲がりに対する運動療法:(寺井委員)  
腰曲がり運動療法の概略(3ヵ月間の運動療法指導、以後は自主訓練を継続し1年フォローを実施)説明あり、また105例の中間解析結果が報告された。運動療法導入後3ヵ月で腰痛VASは有意に改善し、25mm以上改善を約1/4の症例に認めた。一方矢状面画像パラメーター(SVA)は全体では有意な変化を認めないが、2cm改善を1/4で認めた。今後は臨床的改善が得られる母集団、画像的改善が得られる母集団の特徴、臨床的改善と画像的改善の相関等を解析していく予定である。公表は、2023年JSSRのシンポジウム、論文化は2023年秋以降も目標としている。
  - 頰肩腕症に対する薬物治療(若尾委員)  
3ヵ月データ255例、6月データ128例が集積され、予備検討では薬物治療が費用対効

果に優れることが確認されている。現在データ収集とデータ入力を進めており、その作業は2023年1月に完了する見込みである。

今後、データから具体的解析内容を決定し委員メンバーを含めて学会発表・論文化を進めて行く予定である。

#### 4. 登録中プロジェクト研究

- 1度すべりに対する除圧 vs 固定術（八木委員）

研究概要の説明の後、症例登録状況の報告がなされた。症例登録は5年500症例で、毎月10例程度の症例が集積されている。目標症例には到達する見込みであるが、再度漏れなく参加施設では該当症例を登録いただくよう依頼を行った。

- 成人脊柱変形に対する手術治療（大和委員）

症例登録が当初 COVID19 の影響もあり伸び悩んだが現在は毎月一定の登録が続いている。しかし目標症例数の達成は現状では困難であるため、参画施設が該当症例を全例登録することを条件に症例登録期間を半年程度延長（元来2023年3月終了予定）する予定である。症例登録期間の延長は委員により承認された。

- 腰痛がりに対する保存治療（長田委員）

現在122症例の登録があるが、目標症例の300症例登録は難しい状況である。解析結果の意義を大きく損ねない範囲で200症例に目標を変更することが提案され、委員により承認された。また、症例登録を今後各大学5例は実施いただき、その症例登録状況を毎月メールで共有し症例登録が遅れている施設には督促を行うこととなった。長田委員より腰痛で来院された症例なども全脊柱を撮影すれば脊柱変形に該当することが多く、全脊柱Xpの撮影→本プロジェクトへのエントリーのプロセスを積極的に進めてほしいとの依頼があった。

- 神経根ブロック研究（宮城委員）

現在60症例程度が登録されているが、6ヵ月までにドロップアウトする症例が多い。目標症例は200例を予定したが、現在までの登録状況を考慮し100症例に変更することが提案され委員により承認された。また今後研究期間を考慮し毎月5症例（各大学研究期間中に5症例）の登録を依頼し、腰痛がり保存治療と同様に症例登録状況を毎月メールで配信、症例登録が進みにくい大学では個別依頼を行うこととなった。ドロップアウト症例についても解析に含める予定であることが宮城委員より説明された。

#### 5. 松山前理事長

委員メンバーが均等にエフォートを注ぎ結果に結びつけることが重要であることを再度委員メンバーに周知いただいた。

#### 6. 今後の予定

2022年10月末から11月初旬 インセンティブに関するメール審議

2022年12月中 第4回 プロジェクト委員会（Web開催）